

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 21 年度 第 1 号 2009 年 9 月 30 日

北海道立栽培水産試験場 調査研究部 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 21 年 8 月 26～31 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500mの海域

なお、スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもご覧になれます。ご利用ください（ホームページには 10 月上旬に掲載する予定です）。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

- ・ 水温 5 の水深は 120m 以深となっており（前年同期は 180m 以深）、スケトウダラに好適な水温環境は前年度よりも浅みに形成されている
- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、前年同期よりも大幅アップ
- ・ 反応の比較的強い水深は 200～250m
- ・ 魚群反応は胆振沖（とくに登別沖）が中心
- ・ 漁期始め（10～11 月）の漁獲量は前年同期を上回る可能性大

- 1．調査海域の 5 以下の水深は 120m 付近に形成されており、主に 5 以下の水温に生息しているスケトウダラ成魚にとって、好適な水温環境は前年度よりも浅くなっています。
- 2．スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて広い範囲で観察されました。その中でも、胆振海域の 185 海区の反応がもっとも強く、日高海域の 167、164 海区、胆振海域の 176、179 海区、渡島海域の 189 海区の反応が強くなっていました（図 1）。
- 3．魚群反応は、水深 100m～400m の範囲に観察されました（図 2）。海域平均の反応量は、前年同期を大幅に上回り、平成 16 年度および平成 18 年度と同程度となっていました（図 3）
- 4．トロール調査の結果、水深 100～250m の反応はスケトウダラ成魚と小型の未成魚、300m 以深はスケトウダラ成魚とイトヒキダラと考えられました。
- 5．魚探反応とトロール調査の結果から、漁獲対象となるスケトウダラ成魚は水深 200～250m に多いと推測されます。
- 6．スケトウダラの反応量や反応の強い海域から判断して、漁期始めの漁場は胆振寄りの登別～室蘭沖に主漁場が形成されると考えられます。また、10～11 月の漁獲量は前年度を上回り、2 万トン台半ば程度になると予想されます。

なお、今回の魚探調査の結果は、漁期始め（10～11 月）の状態調べるために実施しているものです。12 月以降の状況は、11 月下旬～12 月上旬に実施する調査により予測する予定です。調査終了後にこのスケトウダラニュースを発行して、改めて分布状況や来遊量をお知らせする予定です。

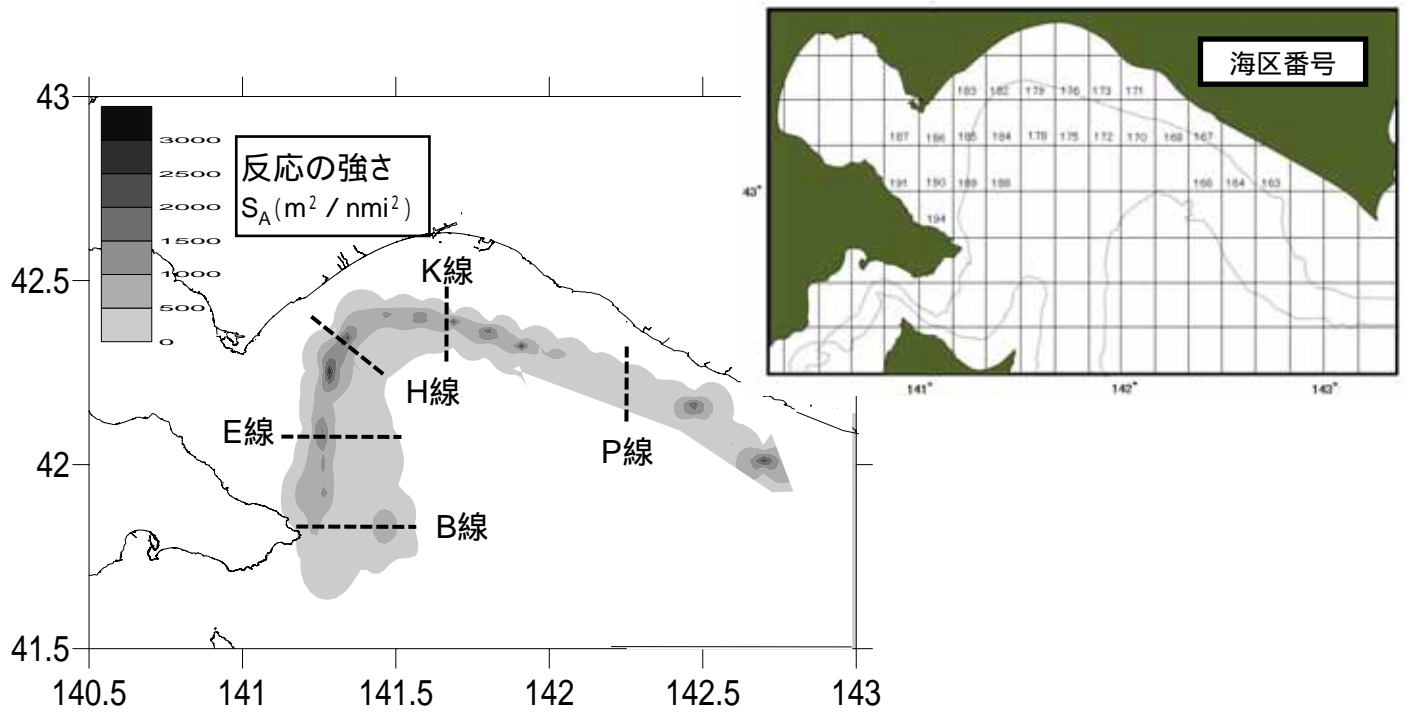


図1 調査海域における魚群の分布

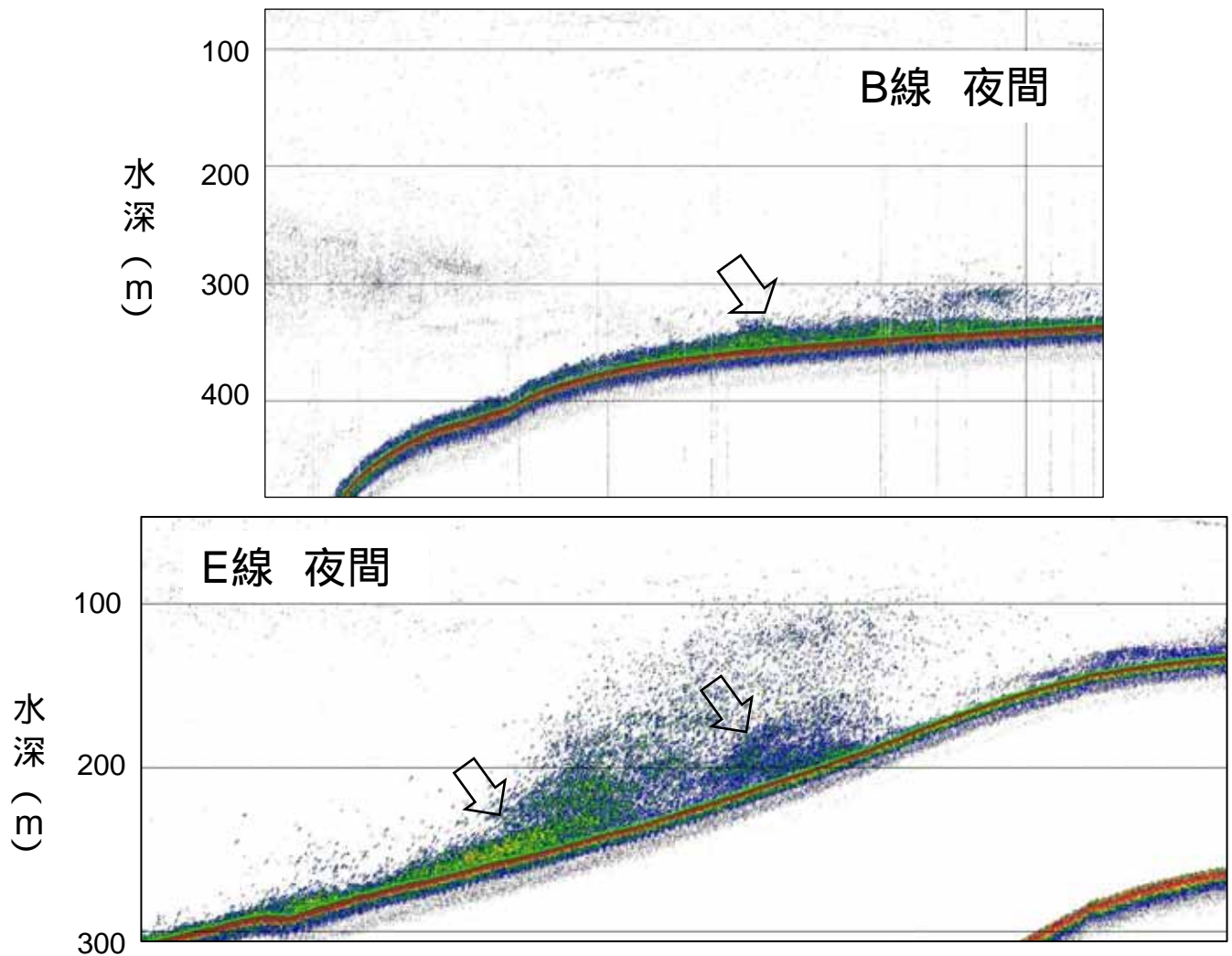


図2 魚群の分布(計量魚探画像)

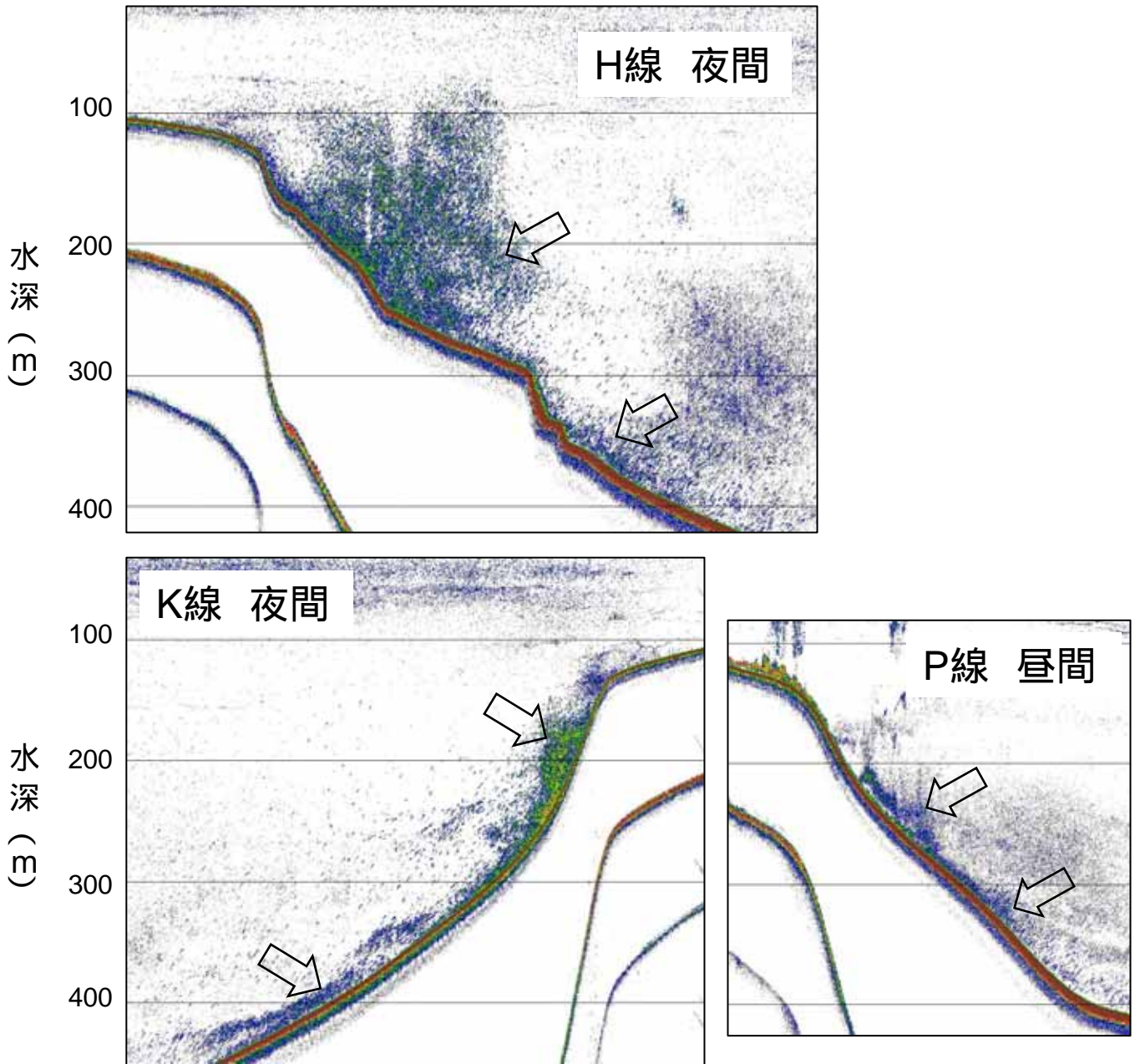


図2 魚群の分布(計量魚探画像)つづき

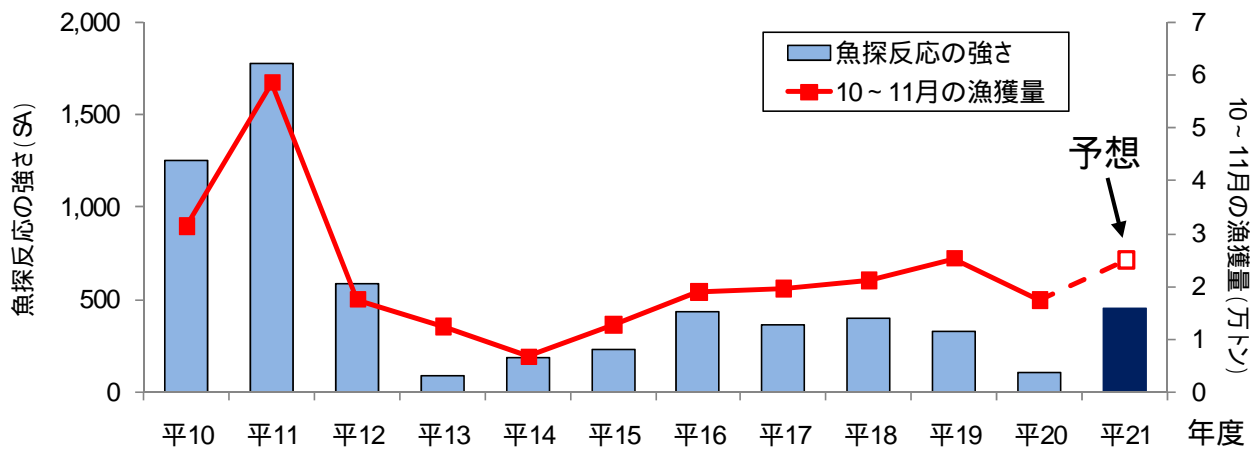


図3 道南太平洋海域におけるスケトウダラ資源尾数(棒)および重量(折れ線)